

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2016年5月）

目 次

内 政

- ◆フィツォ首相、ダンコ国会議長の退院 2
- ◆政党支持率調査結果 2
- ◆ライチャーク外務・欧州問題相の国連事務総長立候補 . . 2

外 政

- ◆スロバキア・ロシア外相会談 3
- ◆シュルツ欧州議会議長のスロバキア訪問 3
- ◆スロバキア・フランス外相会談 3

社 会

- ◆スロバキアが受け入れたイラク難民の帰郷 4
- ◆V 4 各国の国別信頼度調査 4

経 済

- ◆欧州委員会 2016年春の経済予測 4
- ◆ブラチスラバのバイパス高速道路建設契約署名 5
- ◆スロバキア中央銀行月報（5月） 5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆ロマンコミュニティ特使の辞任（１日、２日）

１日、４月に国立循環器疾患研究所において心臓外科手術を受けたフィツォ首相が同研究所を退院した。今後、フィツォ首相は自宅療養に入ることとなる。フィツォ首相は入院中も公務を行っていたとのことであり、カリニャーク内務大臣は同首相が既にいくつかの法律案に署名したことを明らかにした。

２日、国立腫瘍研究所で胃の手術を受け入院していたダンコ国会議長が退院した。ダンコ議長は退院後の療養は必要ない健康状態とのことである。

◆政党支持率調査結果（１３日）

世論調査機関Focusによる５月の政党支持率調査の結果は以下のとおり（括弧内は支持率に基づいた議席数）。連立与党の一つであるSiet（ネットワーク）の支持率が議席獲得に必要な５％を下回っている。

政党	Focus	３月の選挙
Smer-SD（方向・社会民主主義）	28.7%(52)	28.3%(49)
SaS（自由と連帯）	13.0%(24)	12.1%(21)
SNS（スロバキア国民党）	11.2%(20)	8.6%(15)
LSNS（我々のスロバキア）	8.9%(16)	8.0%(14)
OLaNO－Nova（普通の人々・独立した人達－新たな多数派）	8.8%(16)	11.0%(19)
Most-Hid（架け橋）	6.0%(11)	6.5%(11)
Sme ridina（我々は家族）	5.9%(11)	6.6%(11)
Siet（ネットワーク）	3.5%(-)	5.6%(10)

◆ライチャーク外務・欧州問題相の国連事務総長立候補（２５日）

スロバキア政府は２５日の閣議でライチャーク外務・欧州問題相の次期国連事務総長への立候補を承認し、国連に対し速やかに同大臣の立候補を届け出た。フィツォ首相は「政府は一致してライチャーク大臣の立候補への支持を表明した。これまでスロバキアはこのような国際的要職に候補者を擁立したことはなく、この立候補は歴史的な出来事である」と述べた。ライチャーク大臣は立候補によりスロバキアに対して大きな義務を担うことになったとの認識を示し、「スロバキア外交は引き続き国際法、対話、お互いに対する敬意を尊重していく。これらは国連の基盤となる原則であり、自分が信じるものでもある。自分はこれらを職業人生を通して推し進めていくつもりである」と述べた。

外 政

◆スロバキア・ロシア外相会談（１０日）

モスクワを訪問したライチャーク外務・欧州問題相はラヴロフ・ロシア外相と会談した。ライチャーク大臣は会談の中で二国間関係につき、ＥＵ・ロシア関係の現状により一定の留保はあるものの、両国の間には長年の協力の中で築かれた基盤があると述べた。また、ライチャーク大臣は本年後半のスロバキアのＥＵ議長国就任について説明すると共に重要なテーマの一つがロシアとの関係であると強調した。この他、両外相はウクライナ情勢、移民問題、シリア情勢についても協議した。更にライチャーク大臣はガスパイプライン「ノルド・ストリーム２」計画に反対するスロバキアの立場を説明し、同計画がスロバキアの経済とエネルギー安全保障に悪影響を及ぼす可能性があることを伝えた。

◆スロバキア・フランス外相会談（２５日）

パリを訪問したライチャーク外務・欧州問題相はエロー・フランス外相と会談した。ライチャーク大臣は会談の中で、二国間関係が問題のない水準にあり、密接な双方向のコンタクトが行われていることを評価した。また、ライチャーク大臣はスロバキアのＥＵ議長国就任に向けた準備状況と議長国としての目標を詳細に説明した。両外相は、スロバキアのＥＵ議長国としての役割に影響を及ぼす難民問題と英国のＥＵ離脱問題に加え、ウクライナ情勢、対露関係、シリア・イラク情勢、中東における対テロ戦略、北・中部アフリカ情勢についても意見を交わした。

◆シュルツ欧州議会議長のスロバキア訪問（２６日）

シュルツ欧州議会議長はスロバキアを訪問し、キスカ大統領及びフィツォ首相と会談した。キスカ大統領との会談ではスロバキアのＥＵ議長国就任の他、エネルギー安全保障、移民・難民問題、欧州におけるポピュリズムと過激主義の台頭等が取り上げられた。キスカ大統領は「ＥＵ議長国を務める間、ＥＵの結束に貢献するよう全加盟国による合意と妥協のための誠実な仲介者となることを主要な役割とすべきである」と述べた。

フィツォ首相との会談ではＥＵ議長国就任との関連で欧州の諸問題について協議した。フィツォ首相は「我々は準備万端で議長国就任を迎えることを保証する。小国が欧州情勢の中心に立つということは我々にとり大きなチャンスである」と述べると共に、ＥＵ議長国としてスロバキアの体制移行の経験も伝えていきたいとの考えを示した。シュルツ議長は「フィツォ首相との間で移民問題、英国のＥＵ離脱問題、ギリシャの財政状況等も取り上げた。自分はスロバキアと共にこれらの問題を解決できるものと楽観している」と述べた。

社 会

◆スロバキアが受け入れたイラク難民の帰郷（１８日付SME紙）

１７日、内務省は昨年１２月にスロバキアが受け入れたイラク・アッシリア地方のキリスト教徒難民１４９名のうち２１名が故郷に戻ったことを明らかにした。同省によると、スロバキアにおける扱いに対する不満が帰郷の理由ではなく、原因はホームシックである。２家族の年配者が新しい環境に適応できず、当該家族の他のメンバーもその年配者達と共にイラクに戻ることを決断したとのことである。

◆V４各国の国別信頼度調査（２３日）

公共問題研究所（IVÖ）がV４各国の国民に対して行った国別の信頼度等に関する調査結果を公表した。

米国を信頼すると答えた国民の割合が最も多かったのがポーランドで５０％、次いでチェコが４１％、ハンガリーが３３％、スロバキアは２７％と最も少なかった。反対にロシアを信頼する国民の割合はスロバキアが３１％で最多、ハンガリー１７％、チェコ１６％で続き、ポーランドは９％であった。

V４協力に関して「有意義である」と見なす国民はスロバキアが７０％と最も多く、チェコが５０％、ハンガリーが４３％、ポーランドが４１％であった。

V４及びEU内での相互信頼を見ると、チェコとスロバキアの間では国民の約８０％がお互いを信頼していると答えている。スロバキア国民が次に信頼するのがオーストリアで４９％、ポーランドが４０％、チェコの場合は次がフランスで５９％、ポーランド、英国、オーストリアが共に５８％であった。ハンガリーに対しては信頼すると答えたスロバキア国民は３０％、チェコ国民は３７％であった。ポーランド国民が最も信頼するのはスロバキアで６９％、続いてチェコとハンガリーが６１％、ハンガリー国民は６２％がドイツを信頼し、次いでポーランドが５８％、チェコとスロバキアが４０％であった。

経 済

◆欧州委員会 ２０１６年春の経済予測（３日）

欧州委が２０１６年春の経済予測を発表した。今年のスロバキアの経済成長率は去年の３．６％から３．２％に減速すると予想されている。また、欧州委はスロバキア政府の財政計画を信用しておらず、今年の財政赤字は政府のGDP比１．９％に対し、欧州委は２．４％と予想している。

	2015	2016	2017
GDP成長率 (%)	3.6	3.2	3.3
インフレ率(%, yoy)	-0.3	-0.1	1.5
失業率(%)	11.5	10.5	9.5
財政赤字(% of GDP)	-3.0	-2.4	-1.6
政府債務(% of GDP)	52.9	53.4	52.7
経常収支(% of GDP)	0.8	-0.6	-1.1

◆ブラチスラバのバイパス高速道路建設契約署名（20日）

フィツォ首相は Cintra 社との間でブラチスラバのバイパス高速道路建設契約に署名した。この契約はPPP（官民パートナーシップ）により Cintra 社（マネジメント：スペイン）、Porr 社（建設：オーストリア）及び Mocquarie Capital（ファイナンス：オーストリア）によるコンソーシアムが60キロに及びD4とシャモリーン（Samorin）方面へのR7を建設し、30年に亘り管理するというものである。スロバキア政府はコンソーシアムに対して毎年5700万ユーロを支払うことになる。建設は3ヶ月以内に開始され、完成は4年後とされている。シンクタンクの INEKO はD4とR7がブラチスラバの渋滞解消につながるかを疑問視している。

◆スロバキア中央銀行月報（5月）

1. GDP

2016年第1四半期のスロバキアの経済成長率は予想を若干上回り速報値は0.7%であった。前年同期比では3.3%を記録し、EU基金消化が一段落した後もスロバキア経済の成長基調が継続していることを示している。民間消費は予想ほど大幅に成長せず、反対に投資は想定されたほど大きな減少にはならなかったと見られる。

2016年第1四半期の鉱工業生産は予想通り前期比0.2%と減速し、3月には前年同期比では1.4%減にまで低下した。

2 労働市場

統計局の速報値によると、2016年第1四半期のスロバキア経済全体の雇用率は前期比で0.5%、前年同期比で2.2%上昇した。就業者の数は昨年末と同様のペースで増加している。EUの2014～2020年プログラム期間の雇用促進プロジェクトが比較的順調にスタートしたことが就業者の増加に貢献し、特に鉱工業部門と建設部門が雇用率上昇を後押ししたと見られる。反対

に、商業とサービス部門は昨年末の高水準の影響で低い上昇率にとどまった。

4月の失業者数は約1600人減少し、季節調整前の登録ベースでの失業率は前月比で0.25%低下して9.64%であった。3月の平均賃金は前年同期比で7.4%増加、名目で891.7ユーロに達した。この賃金の上昇は実質的に全ての主要部門で見られている。

3 物価

4月の物価は前年同期比では0.4%下落したものの、前月比では0.4%上昇した。特に燃料、衣類、履物、タバコ製品及びアルコール飲料の価格が上昇した。トウモロコシや小麦が過去数年の最低価格に近い状態にあるなど、原料となる食糧品の世界市場における低価格が、スロバキアにおける食料品価格に影響を及ぼし低水準が続いている。

4 貿易

輸出は、好調であった1月と2月の後、3月に減速しており、前期比で予想を下回った。他方、月別の輸入も輸出と同様の傾向を示しており、純輸出は2016年第1四半期予測の水準でGDPに貢献したと考えられる。3月の前年同期比での輸出は6.7%減、輸入は4.1%減であり、貿易黒字は1億5400万ユーロに達した。

(了)

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

